

令和5年1月16日発行

こうじえん

普及センターだより

耕耳苑

第181号



宮古農業改良普及センター  
岩泉普及サブセンター

TEL : 0193-64-2220  
TEL : 0194-22-3115

FAX : 0193-64-5631  
FAX : 0194-22-2806

## 年頭のごあいさつ

宮古農業改良普及センター 所長 加藤 満康

寒中の雪のなか、三鉄列車が走り山々は眠ります。皆様には、穏やかで明るい年になるよう心からお祈りします。

昨年来、新型コロナに物価高など不安が押し寄せる日々を過ごしています。農業では資材高に加えて、子牛相場低迷などにより経営が打撃を受けています。時をさかのぼれば、石油ショック、輸入自由化、放射能など、幾度となく危機に見舞われましたが、逆風に負けずに人事を尽くしているところへ時代の変化が相まって道は開かれてきました。

翻って社会を見ると、食料の安定供給を求める声が強くなっています。今を生きる私たちも、先を見通し目標を見失わずに、先人に倣い力を合わせて進んでいきましょう。

今年の干支の「卯」は、「目に見えて成長する、飛躍する」と言われます。あやかっ、閉塞感からピョンと跳ね出る年になることを願っています。当センターは、本年も皆様の目標が叶うよう支援し続けて参りますので、職員一同よろしくお祈りします。

## JA宮古地域野菜部会ブロッコリー専門部受賞

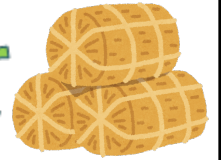
令和4年12月22日、岩手県民会館で、「令和4年度いわて農林水産躍進大会」が開催され、新岩手農業協同組合宮古地域野菜部会ブロッコリー専門部（以下、ブロッコリー専門部と記載）が、いわて農林水産振興協議会会長表彰の「個性ある産地づくり賞」を受賞しました。この賞は「産地形成」に優れた成果をあげている農林漁業者及び組織を表彰するもので、今年度県内では農業部門・林業部門で各1団体が受賞しました。

ブロッコリー専門部は、沿岸部の気候を活かして春どり作型・秋どり作型の2作型でブロッコリーの高品質生産・安定出荷を行っているほか、氷詰め出荷による品質確保、グローバルGAPの団体認証取得等に取り組んでいることが評価され、受賞に結びつきました。

【担当：千葉安】



# 令和5年産の稲作に向けて



## 1 令和4年の生育経過

播種から移植期にかけて好天に恵まれ、活着は良好でした。しかし、6月上旬の低温により(図1)、初期生育にやや遅れが見られました。その後は出穂期まで気温が高く推移し、生育は回復基調となり、茎数はやや少なめ～平年並、出穂期は平年より2～3日遅くなりました。その後、8～9月の日照時間が少なく(図2)、登熟が緩慢になり、管内の刈取盛期は平年より2～3日遅くなりました。

結果として、収量はやや少なめ～平年並となり、管内の1等米比率は90.7%となりました。玄米品質は、青未熟米がやや多くなりました。

## 2 病害虫の発生状況

4月の高温時に、緑化中の一部の苗で細菌病が発生しました。また、7月上～中旬頃の気温が高く推移したため、葉いもちの発生は平年並となりました。穂いもちの発生も平年並となりました。

斑点米カメムシは多発が予想されたものの、8月に降雨が続いて活動が抑えられ、結果として平年並の発生となりました。

## 3 「銀河のしずく」の高品質多収栽培実証

穂首分化期追肥(従来より10日程早い)による効果の年次変動を確認したところ、去年に続いて従来の追肥時期(幼穂形成期追肥)より多収となり、品質基準を満たしました。

## 4 令和5年度栽培の注意点

### (1) 適切な温度管理による健苗育成

近年、育苗期の寒暖差が激しくなっています。消毒、浸種、催芽、ハウス内と常に温度管理には気を付けましょう。ハウス内の温度管理はもちろんです、特に一番初めの消毒時の水温はその後の出芽揃いに大きく影響するため、12～15℃の水温を厳守しましょう(10℃以下厳禁)。

### (2) 初期生育の確保

令和4年度は、6月上旬の低温により初期生育(主に茎数)を確保しきれない圃場がみられました(図3)。茎数を確保するため、栽植密度は60～70株/坪を維持し、植付本数も4～5本としましょう。

また、移植後3～4日は深水(葉が2～3cm水面から出る程度)にして活着を促進させ、活着後は水深2～3cmの浅水(低温時は深水)にして、分けつの発生を促進させましょう。

### (3) 追肥の実施

初期生育が十分に確保された圃場では、葉色の低下を確認しだい、追肥を実施しましょう。追肥の判断については、毎年JA稲作指導会で解説しています。判断に迷う際は普及センターまでご連絡ください。

【担当：戸田】

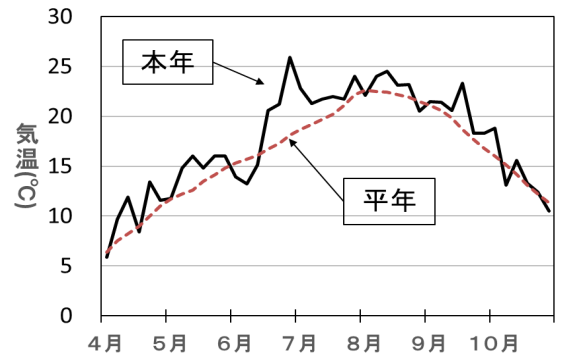


図1 令和4年の平均気温の推移

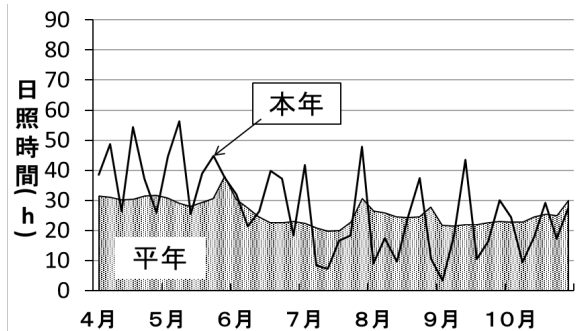


図2 令和4年の日照時間の推移



図3 初期生育が遅れた圃場(6月15日)

# 令和4年 宮古地域肉用牛繁殖経営研修会 ～飼養管理技術向上と子牛損耗防止に向けて～

宮古地方管内においては、子牛の下痢・肺炎による子牛死廃事故が多く、子牛の事故は畜産経営と産地維持において大きな影響を及ぼします。そこで、県では令和4年12月1日に、管内の肉用繁殖牛飼養農家等を対象に、母牛および子牛の飼養管理技術の改善・向上による子牛の損耗防止に向けた研修会を実施しました。

研修会においては、宮城県農業共済組合家畜診療所の松田所長と北里大学獣医学部動物資源科学科の鍋西准教授にお越しいただき、松田所長からは「繁殖牛の妊娠末期から出生後の哺育・繁殖牛の飼養管理」について、また、鍋西准教授からは「ICTを活用した分娩事故低減と子牛の飼養環境改善」について講演いただきました。

当日は、農家21名の出席があり、「分娩管理について改めて勉強になった」、「子牛の下痢対策についても理解を深めることができた」など感想をいただきました。

今研修会のほか、引き続き農家の所得向上と飼養管理技術改善・向上に向けた研修会の開催を予定しておりますので、積極的なご参加を宜しくお願いいたします！



【担当：姉帯】

## 草地における土壌改良資材の単年多量施用に係る現地試験

草地土壌の経年使用による土壌の酸性化は、収量の低下や雑草の侵入を招きます。

そのため、最終刈取後の土壌改良資材の散布により土壌pHの維持・改善が重要ですが、毎年土壌分析を実施し、土壌改良資材を散布するのは手間がかかり、大変です！

そこで、「草地における土壌改良資材の単年多量施用にかかる現地試験」を岩泉町大牛内と田野畑村長嶺にて実施し、土壌改良資材散布の労力軽減を図りました。

粗粒炭酸カルシウムを標準量、3倍量、5倍量施用した区の1～3番草の収量等と土壌の化学性の変化を令和4年から令和8年までの5年間経年調査し、土壌改良資材の単年多量施用によって

「収量はどれほど増加するのか？」、

「土壌のpHはどれほど維持・改善されるのか？」

「多量に撒いた土壌改良資材は何年効果が持続するのか？」

といった、草地への影響を調査しています。

1年目の調査である令和4年度では、岩泉町大牛内の圃場にて、土壌改良資材を散布しなかった試験区と比較して、粗粒炭カルを標準量及び5倍量散布した試験区では収量が増加しました！

来年度以降も調査を継続し、草地への影響の解明に努めます。



【担当：伊藤優】

# 新農業人、求む！！

皆さんのお近くに、農業を「始めたい方」「始めた方」はいませんか？  
また、「経営継承するのに、何か必要なことはある？」「支援制度が分からない！」など悩みを抱えている方はいませんか？

普及センターでは、JAや市町村、農業委員会などの関係機関・団体と連携し、就農相談を行っており、技術習得のための研修先や新規就農者の支援制度などについても御紹介しております。

「もう農業を辞めようと思うが、後継者がいなく、第三者に機械などを譲りたい」などの御相談も随時受付けておりますので、お気軽に御相談ください！！

※ 就農相談は各市町村でも受付けております。

## 【問い合わせ先】

宮古農業改良普及センター

電話 (宮古本所) 0193-64-2220 担当：佐々木花  
(岩泉サブ) 0194-22-3115 担当：千葉彩



【担当：佐々木花】

## 一般消費者対象の「食の匠の技公開講座」を開催します

宮古地方食の匠の会が主催する「食の匠の技公開講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いていましたが、今年度3年ぶりに開催することになりました。

興味のある方は下記により応募してください。

- 1 日時 令和5年2月14日(火) 10時～12時半 (受付9時半～10時)
- 2 場所 山口公民館 (宮古市山口1丁目3-1)
- 3 内容 「麦ぞうすい」「小豆ぱっと」の調理実習
- 4 募集人数 12名 (応募多数の場合は、2/7に抽選し、当・落選を通知します)
- 5 参加料 (材料代) 800円
- 6 用意するもの エプロン、三角巾
- 7 申込先 宮古農業改良普及センター 担当：佐藤  
電話：0193-64-2220 FAX：0193-64-5631
- 8 申込期限 令和5年2月6日(月)
- 9 その他 マスクの着用など新型コロナウイルス感染症対策をお願いします。なお、新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては、中止の場合もありますので、御了承願います。



「麦ぞうすい」

【担当：佐藤】

[編集後記] あけましておめでとうございます。年が明けてコロナ禍は4年目に入りました。岩泉普及サブセンターでも12月初めに複数の発生がありました。今振り返ると換気対策等が不十分になっていた感は否めません。反省とともに、皆様におかれましても、どうか今一度対策の見直しをお願いいたします。今年こそは、流行が終わり元の生活に戻りますように。(富永)